



震災に負けない「勇氣・元氣・根氣」の大久希望(のぞみ)グループ

大久川水系は、風光明媚な屹兎、屋山、猫鳴山、三森山などの渓谷を源流するもので、その流域は海竜の里(フタバスズキリユウ)、晩秋の紅葉風景、爽やかな空気など古代ロマンが漂っている。

この度、大久川上流域のいわき市大久町大久字矢ノ目沢地内農家直売所「大久日曜市」に大久希望グループ代表 新妻ゆき子さんを訪問してお話を伺った。

午前8時、「大久日曜市」直売所には、もうすでに馴染みのお客さんが訪れ、人気の旬の野菜は売り切れていた。直売所脇のたき火には、地域の人やお客さんが豚汁鍋を囲みながら話に盛り上がり笑顔が絶えない様子。何とも見ていて楽しくなる。新妻ゆき子さんの野菜作りの最初は、養蚕農家の傍ら、じゃがいもの植え付けをしたのが始まりで、子育てと野菜作りは手



をかけることなく自然とたくましく育てるものがあるようだ。共通するものがあるようだ。大久日曜市は毎週日曜日、4時起床して、前夜までに仕込んだ漬物、餅、野菜などをトラックに積み込み、午前6時30分に日曜市に到着。午前8時から昼頃まで新鮮な野菜、漬物、山菜加工品などの直売とお客さ

らんとの話の交流を大切に、現在13年目を迎えている。

特に、人気のきゅうりや白菜の「ゆきちゃんキムチ」、糠漬け、浅漬けは、久之浜農協直売所や四倉町のレストラン「くさの根」でも販売されている。

しかし、昨年の原発事故により、大久町は屋内退避区域に指定され、その間、「大久日曜市」のグループ会員は、市内他地区及び県外への避難を余儀なくされ、さらには農作物の摂取・出荷制限のため、昨年3月から4月は全く農作業ができず不安と恐怖に振り回され、今をどうすれば良いのか希望が見えない日々が続いたと話してくれました。そんな時、長男から久しぶりの電話があり、「俺は大丈夫だから心配しなくていいよ」と、「母さんは野菜作りと漬物作りが合っている。商品を提供しってお客さんから笑顔をもらうのが性に合っているよ。俺も漬け物食べたいから」と、その一言で、何にも代え難い勇氣を授けられた気がして、いつの間にか成長した我が子を思い、涙が止まらなかつたそうである。

そんなこともあり、会員と相談の上、関係機関に連絡し、5月1日、約2ヶ月ぶりに農家直売所「大久日曜市」を再開、例年より作付けが遅れたため出荷品数が少なかったが、常連の消費者の方や多くの地域の人が集まり、再開を喜び、たちまち売り切れた。

「やって良かった。お金で買えないものを頂いた」と言う新妻ゆき子さん。周囲の応援や声援に大変な感謝をしていた。「自分に来ることをして、お客さんの笑顔をもたらせるなんて、こんな幸せな事はない」、「日曜市は再開して良かった」とのことである。

震災後の売り上げや出品数は大幅に低下したが、グループ会員5名に笑顔が戻り、毎週日曜日の営業を続けている。日曜市が復活して再び、その活力がみなぎり始めたようだ。

近隣で野菜を作っている方にも、是非、日曜市への出荷協力をお願いしたいものである。地域が栄えて、それを慕って遠方の方がやってくる。それが、繁栄の源であると考えます。

編集後記

今年もまた「原発事故により」はじまり「放射能検査」で締めくくる1年であった。

そのため、風評被害、健康及び市民生活、農産物への影響など多岐にわたる、関係地域が驚きと不安に振り回された。

米の全量全袋検査も市内9箇所を実施され、ほとんどが基準値内となつていく。

最近の食に対しての関心の高まりと「地産地消」が大きく叫ばれているおり、消費者に安全な農産物を提供することは産地の責任でもある。

また、いわき市においても、いわき市見せる課が発足し、「いわき見える化」プロジェクト 見せま

す!いわき情報局のホームページ等で情報発信して、農産物に関する透明性を高めるための参

考にしてください。

(執筆 飯高 敬一 委員)



▲見せます!いわき情報局ホームページ

トピックス 夏秋ねぎを作りますか?



いわき農林事務所農業振興普及部では、長ねぎの周年栽培を目指し、夏秋ねぎの栽培を推奨しています。

- 《夏秋ねぎの導入による効果》
 - 秋冬ねぎと併せたねぎ周年栽培を行い、規模拡大が図れる。
 - 10月播き、1月播きと播種時期を調整することで、6月や9月の価格の安定している時期に出荷できる。
 - 米の収穫期や秋冬ねぎの収穫期に重なることがない。
- などの経営の向上が図れる一方、夏秋ねぎは、秋冬ねぎ以上に病害虫の防除に注意する必要があるなど留意事項もあります。



●問い合わせ先
〒970-8026 いわき市平字梅本15番地 (県合同庁舎3階)
福島県いわき農林事務所
農業振興普及部園芸産地振興担当まで
電話：0246-24-6161
FAX：0246-24-6196

農家のための情報誌

全国農業新聞の購読をあなたも
発行・・・毎週金曜日(月4回)
購読料・・・月600円
申込先・・・お近くの農業委員
または農業委員会事務局
電話・・・(22) 7534

編集委員
荒川 光弘 草野 城太郎
飯高 敬一 渡邊 和夫 佐川 良平